

平成15年度事業報告

事業の状況

1. 助成顕彰事業（寄付行為第4条の第1項、第3項及び第5項） 【10,023,536円】

第11回 日本文化芸術振興賞

優れた芸術・伝統文化の活動（研究）により、芸術・伝統文化の振興、また、新しい方向性を示唆するなどの著しい功績をあげた者、あるいはこれまで芸術として省みられなかった伝統文化の各分野において、作品の制作・研究活動を行っている人々を対象とした振興賞は、以下の2組に対して功績を称え賞金授与を実施した。

日本伝統文化振興賞 1名 賞金 150万円
宮田 まゆみ (49歳) 笙演奏

日本現代芸術振興賞 1組 賞金 150万円
中川 幸夫 (85歳) 現代いけばな作家

第11回 日本文化芸術奨励賞

日本の伝統文化及び現代芸術の分野における、優秀な新人及び文化・芸術の研究者に対する助成を以下の個人に対して実施した。
受賞の1年後に活動報告書の提出を義務付けている。

日本伝統文化奨励賞 1名 助成金 100万円
久貝 典子氏 (46歳) 民族芸術文化学(染織文化研究)

日本現代芸術奨励賞 1名 助成金 100万円
留守 玲氏 (27歳) 金属(主に鍛金)

第10回 外国人留学生・研究者助成金

日本の伝統文化の技術を修得、または調査研究をするために日本に留学しているか、留学を予定しており、日本の芸術・伝統文化への理解、国際交流、普及に貢献することを期待される外国人に対する助成を以下の二人に対し実施した。

2名 助成金 各100万円

(ア) ヴォ チョン ギア氏 (27歳) 国籍 ベトナム
専門分野 建築・土木 東京大学大学院修士2年
所属 東京大学景観研究室

(イ) 呉 海燕(ゴ カイエン)氏 (28歳) 国籍 中国
専門分野 芸術文化学「琉球漢文」 沖縄県立大学院後期博士課程

実施経過

告知：平成15年9月1日

応募受付：平成15年11月1日から平成15年11月30日(当日消印有効)

広報活動：ちらし、ホームページ、専門誌、関係誌による告知
関係機関への応募要項の送付

発送総数：1,400通

発送先：美術館・新聞社・雑誌・大学・大使館・財団役員・過去の助成顕彰関係者・
会員・協賛社・評論家・NHK支局・画廊・海外機関
告知：インターネット

応募状況：平成 15 年度 応募件数 43 件 ()内は平成 14 年度件数

第 11 回日本文化藝術奨励賞	
日本伝統文化奨励賞	2 件 (5 件)
日本現代藝術奨励賞	7 件 (16 件)
第 11 回日本文化藝術振興賞	
日本伝統文化振興賞	11 件 (6 件)
日本現代藝術振興賞	8 件 (10 件)
第 10 回外国人留学生・研究者助成金	15 件 (13 件)

選考委員会

- 日時 平成 16 年 2 月 12 日 (木) 13:30~17:00
- 場所 東京都新宿区南元町 13-7 (財)日本文化藝術財団 2F 会議室
- 出席者 委員長 芳賀 徹
委員 金子賢治
観世榮夫
木戸敏郎
書面にて出席(書類選考提出者)
委員 栄久庵憲司
大島清次
酒井忠康
中村昌生

選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料の要約を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、応募者から提出されたビデオ、CD、ポートフォリオ、論文集、カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧した。
- ・ 各委員から応募者に対する意見(欠席委員から提出された選考意見書を含む)を出し合い、委員長が意見を集約し各部門ごとに選出候補者を絞り、さらに審議し出席委員全員同意の上で、選出者を決定した。

第 11 回 日本文化芸術振興賞授賞式典の開催

- 開催日 平成 16 年 3 月 31 日
- 会場 明治記念館
- 来場者 226 名
- 内容 授賞式典、
授賞者紹介
祝宴

2. 育英事業(寄付行為第 4 条の第 4 項)

【1,533,918 円】

国内の芸術系大学の 3 回生・4 回生または大学院に在学し、絵画・彫刻・工芸・建築(造園を含む)・デザイン(グラフィックデザイン及び工業デザインのみ)の実技部門を専門としている優秀な学生に対し奨学金を以下の通り給与した。

給与者

大学生 1名 奨学金 30万円(前期、後期2回に分けて給付)
小林 陽介(こばやし ようすけ)
東京造形芸術大学 造形学部 美術学科 4年 (21歳)

大学院生 2名 奨学金 各50万円(前期、後期2回に分けて給付)

太田 敦子(おおた あつこ)
武蔵野美術大学大学院造形研究科 美術専攻版画コース 1年 (24歳)

佐藤 裕一郎(さとう ゆういちろう)
東北芸術工科大学大学院 芸術工学 1年 (23歳)

平成15年度育英事業実施状況

募集 : 全国の4年生芸術系の24大学に応募要項を送付
大学生 1名 奨学金 1年間30万円の給与
大学院生 2名 奨学金 1年間50万円の給与
募集期間 : 平成15年5月6日~平成15年5月17日
申請書類 : 奨学生願書 奨学生願書2 担当学科専任教官より推薦書
成績証明書 健康診断

応募者の状況 :
大学生 14名
大学院生 19名
合計 33名 (前年より19名減)

選考委員会の開催 : 平成15年6月6日(金) 13:00~15:30

出席者/委員 井上 隆邦
徳山 豊
中村 一
野呂 芙美子
久谷 政樹
長谷川 文雄 (五十音順)
互選により、久谷委員が議長となった。

給与候補者の選出

【大学生】大学生全応募者の中から各委員より3~4名選出し、審議し多数決の結果、満票で1名選出した。

【大学院生】各委員より3~5名ずつ選出し、審議のうえ多数決により9名に絞った。9人について審議し、多数決で上位3名を選出、2名を選出するべく投票を行ったが票がわかれた。3人の候補者の成績、作品、生活環境等を審議し全員の同意を得2名を選出した。

その他 下記の2点が提案された

作品の形態が多様化するなかで現在の応募書類では平面での表現に特化した作品が有利になる。この問題をどのように改善するか。

十周年を迎えるにあたって、給与者への作品発表の場の提供、後輩への触発を目的とした展覧会を、開催してはどうか。

会場案: 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学等、財団関係者の協力を図る。

3. 文化芸術普及活動事業（寄付行為第4条の第2項及び第6項）

【25,154,85 円】

1) 音楽のきずな

「創造する伝統『音楽のきずな 三味線いろいろ 』」

主 催 : 財団法人 日本文化芸術財団

後 援 : 文化庁、東京都、明治神宮、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

期 日 : 平成 15 年 12 月 21 日（土） 午後 3 時 00 分開演 5 時 30 終演

会 場 : 朝日生命ホール

実施結果の概要 :

○入場料 一般前売り 3 0 0 0 円（当日 3 5 0 0 円）

大学生前売り 1 0 0 0 円（当日 1 5 0 0 円）

高校生以下 5 0 0 円

○入場者 5 5 0 人

○公演内容

日 時 : 2002 年 12 月 21 日（土）

会 場 : 朝日生命ホール

開場 : 14 : 30

開演 : 15 : 00

終演 : 17 : 50

出演者 : 解 説 小島 美子
お相手 川口 京子
津軽三味線 佐藤 通弘
清元・浄瑠璃 清元 清栄太夫
清元・三味線 清元 栄吉
常磐津・浄瑠璃 常磐津 兼太夫
常磐津・三味線 常磐津 文字兵衛
地 歌 矢崎 明子
長 唄 杵屋 五司郎
義太夫 田中 悠美子
新 内 新内 剛士
三 線 鶴賀 喜代寿郎
語 り 服部 陽子
山口 崇
杵屋 巳楓
音楽構成・節付 増本 伎共子

舞台監督 清野 正嗣

ディレクター 宮原 和子

照 明 原 昌男

舞 台 滝 善光

アートディレクション

鈴木 堯（タウハウス）

デザイン 佐々木 由美（タウハウス）

イラストレーション 植田 美保

○印刷物 プログラム、チラシ、ポスター

○掲載紙誌 東京新聞、産経新聞、日本経済新聞、邦楽ジャーナル
邦楽の友社（ホームページ掲載）

○アンケート

公演内容について :

一部、二部は「音楽のきずな」ならではの構成で各流儀の三味線の音色、奏法等の違いに重点をおいた。三部は、日本の昔話をもとに、作曲家増本伎共子さんに、三味線の特色を生かした曲を委嘱し、俳優、山口崇氏の語りと、三味線の音色、奏法で動物が表現される20分ほどの曲を発表した。それぞれの三味線の魅力が引き出され、来場者には十分に楽しんでいただける内容になったと思われる。また、来場者は本番での出演者の方々の共演に、一流の邦楽の呼吸を感じることができたのではないかと。一般の来場者はもとより、特に、2部、3部については音楽の専門家から、小島先生、演奏者に直接、内容・企画に対して高く評価された感想が寄せられた。

「音楽のきずな 日本のしらべ」(第二回)から、このシリーズでは、体験学習を取り入れている。今回は、出演者で、「猿公の一文銭」でたてを務めた杵屋五四郎氏の指導で口三味線を会場の来場者が体験した。

会場の朝日生命ホールは、邦楽に適した会場ということで、小島氏、舞台監督、出演者、また財団の強い意向により、三味線演奏の間は、マイクを使用せずに公演した。観客からは、三味線の音色の違いがよくわかったとの意見が多く、音が聞き取れないといったことはなかった。

2) ワークショップ

○「創造する伝統『森の中のサウンドワークショップ』」

主 催：財団法人 日本文化藝術財団

協 力：明治神宮

助 成：日本財団

後 援：京都造形芸術大学、東京都教育委員会

会 場：明治神宮内苑芝生広場

参加費： 大学生以上 2000円(楽器レンタル込み)

高校制以下 1000円(楽器レンタル込み)

内 容：

4月 7日	ゲスト	林田博幸(和太鼓)	参加者	33名
4月17日	ゲスト	渡辺洋一	雨天のため中止	
5月 5日	ゲスト	ワガン・ンジャエ・ローズ(サバール)	参加幼児200名(無料)	
		通常ワークショップ	参加者	49名
5月19日	ゲスト	御木裕樹(和太鼓)	参加者	35名
6月 2日	ゲスト	一噌幸弘(笛)	参加者	38名
7月 7日	ゲスト	茂戸藤浩司(和太鼓)	参加者	38名
7月21日	ゲスト	茂戸藤浩司(和太鼓)	参加者	34名
9月 1日	ゲスト	レナード衛藤(太鼓)	参加者	43名

国立青少年オリンピックセンターにて

7月より、通算10回の、フェスティバルワークショップ出演のためのワークショップ実施

講師 YAS-KAZ、林田博幸 参加者 5人から20人 無料

○「創造する伝統『森の中のサウンドフェスティバル JAPAN WAVE 2003』」

主 催：財団法人 日本文化藝術財団

協 力：明治神宮

助 成：日本財団

後 援：京都造形芸術大学、東京都教育委員会

開催日：平成14年9月7日(土)8日(日)

会 場：明治神宮内苑芝生広場 雨天のため神宮会館
参加費：一般2500円、学生1000円(中学生以上)
2日間通し券3500円、 学生1500円、 小学生以下無料

内 容：

9月7日(土) 開場 14:30 815名

第1部 開演 15:00

琉球國祭り太鼓 / 龍降器楽楽団(池田正博・山平憲嗣・原聡) /
アフリカンドラムチーム / Da.K.T. (茂戸藤浩司・Ajo・Nori)
ワークショップチーム(一般参加)

休憩 14:40

第2部 開演 16:55

出演者

林田博幸(桶太鼓) / 御木裕樹(和太鼓) / 茂戸藤浩司(和太鼓) / ワガン・ンジャエ・ローズ(サバール) / ブバカール・ガイ(ジャンベ) / オマール・ガイ(ジュンジュン) / ンジャセ・ニャン(サバール) / サンバ・ジャバイ(サバール) / エラージ・ンジャエ・ローズ(サバール) / YAS-KAZ UNIT

9月8日(日) 開演 15:00 783名

アフリカンドラムチーム

AN-CHANG PROJECT(安場淳・宇野世志恵) / 天邪鬼(渡辺洋一・川名真由美・小川ひろみ) / ワorkshopチーム(一般参加)

休憩 16:20

第2部開演 16:35

出演者

一噌幸弘(笛) / 仙堂新太郎(鼓) / 東野珠実(笙) / 中村明一(尺八) / 茂戸藤浩司(和太鼓) / レナード衛藤(太鼓) / ワガン・ンジャエ・ローズ(サバール) / ブバカール・ガイ(ジャンベ) / オマール・ガイ(ジュンジュン) / ンジャセ・ニャン(サバール) / サンバ・ジャバイ(サバール) / エラージ・ンジャエ・ローズ(サバール) / YAS-KAZ UNIT

この事業のワークショップ、フェスティバルに参加、出演している演奏家は、邦楽器を演奏しているが、これまでの古い形にとらわれることなく独自の演奏を追求している、若手・中堅の演奏家であり、公演の内容は、来場者、参加者にわかりやすく、また個々の個性を尊重したものになるよう努力した。

また明治神宮近隣の小学校5校に案内したり、家族連れでの割引、新聞公募での招待等多方面に声をかけ、老若男女を動員できる工夫をした。その結果、乳母車に赤ん坊を連れた若い家族が両日とも、10組ほど来場したほか、小学生低学年、新聞で公募した招待の若者から老人、また、都内の盲学校の生徒、アフリカの太鼓サバールを練習している信州の障害者のグループ等、幅広い年齢、様々な境遇の来場者を得た。

第一部はアマチュア団体も含め、講師陣のそれぞれの演奏、第二部は音楽監督のYAS-KAZ氏を中心にエネルギッシュなリズムを中心としたコラボレーションをおこなった。

事業成果物

印刷物

- ・ ちらし 2回 印刷
- ・ ポスター
- ・ 記録ビデオ

定期ワークショップ 7回
フェスティバル リハーサル
フェスティバル 開催当日

- ・記録写真
- ・ホームページでの告知、
- ・アンケート（別添・・・統計中）
- ・メディア

3) 薪能の共催

主 催 : 京都造形芸術大学 財団法人 日本文化芸術財団
会 場 : 京都市瓜生山 能楽堂 楽心荘
時 間 : 平成14年5月17日
入場料 : 無料招待 約500人
雨により中断

4) 京都造形芸術大学主催 第2回「21世紀アジアデザインコンペ」の共催 情報系のデザイン分野のデザイナー、クリエイター、学生などを対象に優秀な作品に賞を贈り、それらの作品の展示会、出版、インターネットなどによりデザインに対する社会的理解と関心を深めると共に文化芸術の向上に寄与する。

- ・応募締め切り 14年9月10日(火)
- ・審査、作品展 14年10月1日～10月13日
- ・賞 アジアデザイン大賞 (100万円)
アジアデザイン準大賞(20万円) その他

5) 『創造する伝統ライブラリー(仮称)』プロジェクト(3年計画) ホームページのリニューアルの準備

- ・コンテンツの整理
- ・各コンテンツの構成、編集及びデザイン
- ・助成顕彰事業受賞者の近況調査の開始
- ・財団活動広報としての更新

6) 広報活動

ニュースレターの13号の発行
助成顕彰事業 受賞者のインタビュー
○原美術館
○和泉正敏氏

4. 10周年式典の開催

【3,183,408 円】

開催日:平成15年3月24日 (月)
会 場:明治記念館 「富士の間」「蓬莱の間」
時 間:第10回日本文化芸術振興賞 他 授賞式典 午後4時
設立10周年記念式典 午後5時
招待状発送者数: 1100 名
出席者数: 313 名
次 第:
16:00 第10回日本文化芸術振興賞・日本文化芸術奨励賞授賞式
16:50 閉式
17:00 設立10周年記念式典

18：00 鼎談 「創造する伝統 - 20世紀から21世紀へ」
芳賀 徹 / 高階秀爾 / 木戸敏郎

19：00 祝儀舞台 吉村七重
田中 泯

19：40 祝宴 木遣り / 新内節 新内伸三郎、新内 剛

展示 10周年のあゆみ

写真パネル、音楽のきずな、ワークショップ等の編集ビデオ放映、これまでの
事業パンフレット、ポスター、ちらし、ニュースレターの展示